

第2章 律令国家の形成

589年、[1 隋]が中国を統一、高句麗などに進出しはじめると、東アジアは激動の時代をむかえた。国内では大臣[2 蘇我馬子]が587年に大連[3 物部守屋]を滅ぼし、592年には[4 崇峻]天皇を暗殺して政治権力をにぎった。そして敏達天皇の後[5 推古]天皇が即位し、[6 蘇我馬子]や[7 厩戸皇子](聖徳太子)らが協力して国家組織の形成を進めた。603年には[8 冠位十二階]、翌604年には[9 憲法十七条]が定められた。憲法十七条は豪族たちに[10 国家の官僚]としての自覚を求めるとともに、[11 仏教]を新しい政治理念として重んじるものであった。中国との外交も再開され、607年には[12 遣隋使]として[13 小野妹子]が中国にわたった。

2、律令国家の成立 a, 大化の改新

①中国…[14 唐]の成立→中央集権制に基づく世界帝国を建国

→[15 高句麗]に侵攻開始→[16 朝鮮]半島の緊張の高まり

[17 留学生]の帰国→唐にならった[18 中央集権国家体制]樹立への動き高まる

630 第一回遣唐使(犬上御田鍬)

②日本=[19 蘇我蝦夷・入鹿]父子による権力集中すすむ→[20 山背大兄王]を自殺させる(643)

③[21 645]年、[22 中大兄皇子]・[23 中臣鎌足]ら蘇我蝦夷・入鹿父子を滅ぼす。
([24 乙巳の変])

④新体制の樹立…皇極天皇の退位と[25 孝徳]天皇即位、
皇太子[26 中大兄皇子]、蘇我倉山田石川麻呂らを左・右大臣に、内臣[27 中臣鎌足]
国博士[28 僧旻]、29 高向玄理]=政治顧問

年号を[30 大化]とし、都を[31 難波]にうつす。

⑤施政方針…[32 改新の詔]4カ条(646)→33 天皇中心の中央集権化 をめざす

[史料]改新の詔 (『日本書紀』、原漢文)

其の一に曰く、「昔在の[34 天皇]等の立てたまへる子代の民、処々の[35 屯倉]屯倉、及び、別には臣・連・伴造・国造・村首の所有者[36 部曲]の民、処々の[37 田莊]を罷めよ。…」

其の二に曰く、「初めて京師を修め、畿内・国司・郡司・関塞・斥候・防人・馭馬・伝馬を置き、及び鈴契を造り、山河を定めよ。」

其の三に曰く、「初めて[38 戸籍]・計帳・[39 班田収授]の法を造れ。」

其の四に曰く、「旧の賦役を罷めて、田の調を行へ。……別に戸別の調を収れ。」

ア)[40 公地公民]制をめざす=41 豪族の持つ私有地・私有民(私地私民)を廃止

イ)[42 中央集権]的な政治体制の樹立→地方行政機関として[43 評]を設置など

→この時期に行われた改革を[44 大化の改新]という

7世紀半ばに[45 隋]が高句麗に侵攻をはじめると、周辺諸国は緊張状態となった。倭では、蘇我[46 入鹿]が厩戸王(聖徳太子)の子の[47 山背大兄王]を滅ぼして権力集中をはかったが、[48 中大兄皇子]は、[49 中臣鎌足]らの協力を得て、[50 645](大化元)年に蘇我蝦夷・[51 入鹿]父子を滅ぼした([52 乙巳の変])。そして王族の軽皇子が即位して[53 孝徳]天皇となり、中大兄皇子を[54 皇太子]とする新政権が成立、646(大化2)年正月には、「[55 改新の詔]」で[56 公地公民]制への移行をめざす政策が示された。地方行政組織や中央の官制も整備され、大規模な[57 難波宮]も営まれ、中央集権化が進められた。こうした諸改革は、[58 大化の改新]といわれる。

b, 律令国家への道

①[59 新羅]と[60 唐]連合軍の攻撃により[61 百濟]滅亡(660)高句麗も滅亡(668)

→[62 百濟]援助のため朝鮮に出兵→[63 白村江]の戦い(663)で大敗

→以降、[64 新羅]による朝鮮半島の統一が成功(676)

②大陸からの侵攻を恐れ、[65 防衛策強化]と国内政治の改革

ア)都を[66 近江大津京]に移す

イ)軍備の増強=[67 大宰府]付近に水城など、各地に[68 朝鮮式山城]など防衛施設を建築

ウ)中大兄皇子、自ら天皇に即位=[69 天智]天皇

エ)内政の充実…[70 近江]令の制定? =最初の令

[71 庚午年籍]=[戸籍の作製] 72 人民の掌握をはかる

↓

③天智の死後、672[73 壬申]の乱勃発

→天智の弟[74 大海人]皇子、天智天皇の子[75 大友]皇子を倒す

→大海人皇子、[76 飛鳥浄御原宮]で天皇に即位=[77 天武]天皇となる

朝鮮半島では、[78 唐]が[79 新羅]が結び、[80 百濟]・[81 高句麗]を次々滅ぼした。これにたいし、飛鳥へもどった[82 齊明]天皇のもとで、[83 百濟]復興支援のため大軍を派遣したが663年に[84 白村江]の戦いで大敗した。この敗戦の危機感のなか、大宰府の北方に[85 水城]などがぎざかれ、対馬から大和にかけて朝鮮式[86 山城]がぎざかれた。さらに、中大兄皇子は667年に都を[87 近江大津宮]に移し、翌年に即位して[88 天智]天皇となり、670年には最初の戸籍である[89 庚午年籍]を作成した。

天智天皇の死後、672年、天智天皇の子の大友皇子と天智天皇の弟[90 大海人皇子]とのあいだで皇位継承をめぐる[91 壬申]の乱が発生、[92 大海人皇子]が近江朝廷をたおし、翌年[93 飛鳥浄御原宮]で即位した([94 天武]天皇)。乱の結果、強大な権力を手にした天武天皇を中心に[95 中央集権]的国家体制の形成が進んだ。